

海外安全対策情報
2017年4月～6月

在オークランド総領事館

1 治安情勢・一般犯罪の傾向

一般治安関係

NZ国内では、これまで大きな治安上の問題は起きていません。

しかし、NZでは強盗や侵入窃盗、車上狙いや繁華街での暴行事件が多く発生しています。そのため防犯対策には十分な注意が必要です。また、犯罪組織メンバー同士の抗争も発生しているため、争いに巻き込まれることのないよう繁華街等では、特に注意してください。

NZ政府は治安対策強化のため、今後4年間で約1,100名の警察職員増員（約10%増）を決定し、組織犯罪対策や各種犯罪の対策を行っています。

(2) 地図で見る犯罪発生件数

2016年6月10日、NZ HERALD紙はウェブサイトにて「地図で見る犯罪発生件数」を掲載しました。下記リンクにアクセスして、あなたがお住まいの地域の状況をチェックしてみてください。

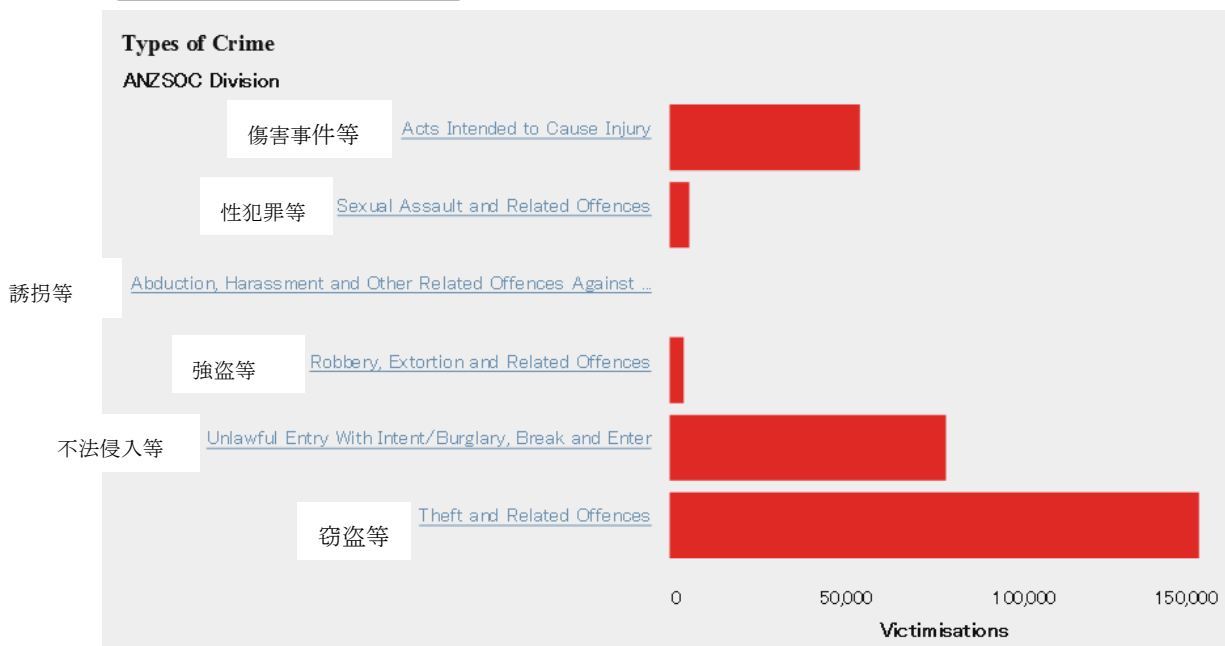
<http://insights.nzherald.co.nz/article/assaults-in-public-places>



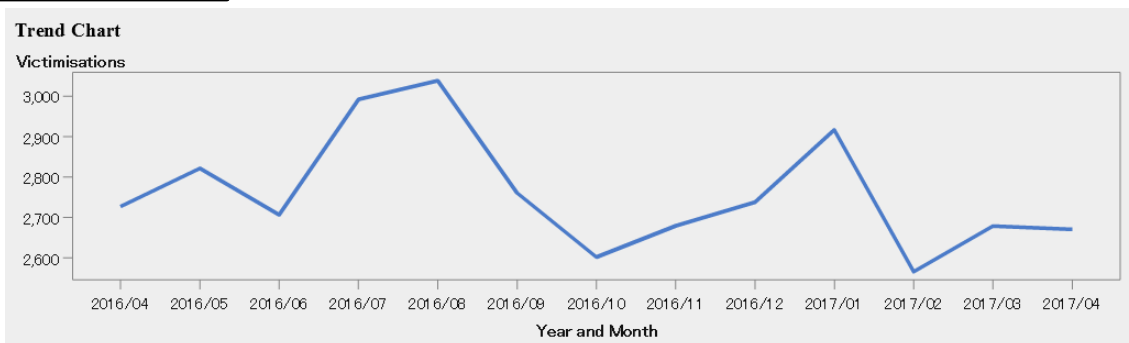
(3) オークランドの犯罪傾向

2016年4月から2017年4月のオークランド市内中心部の犯罪傾向についてオークランド警察は次のとおり発表しています。

犯罪の種類と被害者数



被害者数推移



引用元 : <https://policedata.nz>

2 テロ・爆弾事件発生状況

(1) ニュージーランド国内には、テロ組織及び反政府武装勢力の存在は確認されておらず、国外のテロ組織と関連を有している勢力の存在も確認されていません。しかしながら、2014年11月、ジョン・キー首相はISILに関する講演の中で、「ニュージーランド国民は国際テロリズムの危機と脅威にさらされている」と発言しています。

(2) ニュージーランド政府は2015年2月にイスラム過激派組織ISILと闘うイラク軍の能力を高めるため143名の軍人派遣を決定しました。これに関連して、キー首相は「すでにISILはニュージーランドで要員のリクルートに成功しており、またニュージーランド国内では35~40名が監視対象となっている」旨発言しています。

(3) 2015年11月にパリで発生したテロ事件を受け、キー首相は次のように述べています。

「ニュージーランドは他国から地理的に離れていること及びインテリジェンス監視ネットワークに加盟していることもあり、他国と比べ、テロリストから攻撃を受ける脆弱性は低い。しかしながらテロリストの間で行われる精巧な通信技術の高まりにより、その活動を探知することが困難な状況となっており、ニュージーランドがまったく影響を受けないという保障はない。政府はニュージーランド国民に対して、全力を尽くす責任を負っており、異常で不相当と考えるいかなる行動についても監視するが、その全ての情報を得られるという保証はない。」

(4) また、「NZの大学で工学を学んだ留学生が、海外で自爆テロ用の爆弾を製造していた」、「アメリカ政府が中東在住のニュージーランド人を国際テロリストに指定した」といった報道もみられます。

(5) なお、現在ニュージーランドのテロ脅威度は「とても低い(6段階中下から2番目)」から「低い(6段階中下から3番目)」に一段階上昇しています。

3 主な事件(日本人が巻き込まれていない案件)

(1) 2017年4月

午前8時頃、オークランドのBlockhouse bayを登校中の9歳の女の子が、黒いSUVのドライバーから「お金をあげるから車に乗らないか」と声をかけられる。女の子は走って学校に向かい、教師が警察に通報。警察は学校周辺のパトロールを強化し、監視カメラ映像の分析を進めている。

(2) 2017年6月

オークランド在住の男(29歳)が詐欺罪で起訴される。男は移民局の職員を装ってある夫婦に接触。「ビザが簡単に取得できる」と持ちかけ、数ヶ月の間に夫婦から1万ドルをだまし取った疑いがある。

4 主な日本人被害事案

場所 オークランド市内クラブ 被害者 日本人男性

クラブの受付で預けたカバンが紛失。クラブの従業員は「あなたの友達に手渡した」と言うが、友人は誰も手にしておらず、窃盗犯に盗まれた模様。カバンに入っていた現金・クレジットカード・パスポートなどが被害に。

クレジットカードはすぐに解約手続きしたものの、パスポート再発行などで時間と費用を浪費することに。

以上